

# 国際研究産業都市の創造に向けて ～浜通り地域の復興に向けた視点等～

資料3



浮体式洋上風力発電



新・総合磐城共立病院完成イメージ

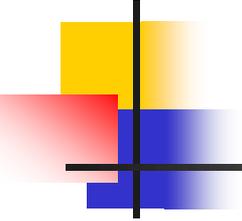


小名浜港背後地周辺の整備イメージ



平成26年5月19日 いわき市





# 目次

---

1. いわき市の現状
2. いわき市の復興に向けた取組み
3. 浜通りの復興に向けて
4. 構想の具現化に向けて

# 1. いわき市の現状

## (1) 避難者の受け入れ

本市は、死者・行方不明者455名、住家等被害 90,541棟という甚大な被害を受けた被災地でありながら、双葉周辺地域から、約24,000人の避難者を受け入れている特殊な状況にある。

⇒双葉周辺地域の住民が数多く在住

## (2) 都市インフラの充実

人口30万人以上を有する中核市として、住環境・上下水道・教育環境・商業・娯楽施設等、一定規模の生活基盤がある。

⇒魅力的な地方都市

## (3) 国際的な知名度の向上

平成27年5月には、国が主催する「第7回 太平洋・島サミット」が本市で開催される。

⇒世界へ向けた情報発信

「いわきの復興」  
が、「浜通りの復興」に繋がる！

「いわきが中心」  
となって「浜通り  
全体をけん引」して  
いく！

# 2. いわき市の復興に向けた取組み

## (1) いわき市復興ビジョン

### 理念3(活力)

#### 前例のない複合災害からの再生モデルを世界に示す復興

今回の災害は、地震、津波による被害に加え、原子力発電所の事故と風評被害が重なった前例のない複合災害であり、その対応は、人類が初めて直面する極めて困難な課題です。

しかしながら、世界中から温かいご支援を受けている「いわき」の責務として、これまで整備されてきた社会資本や蓄積されてきた技術等の地域資源を活かし、再生可能エネルギーの積極的な導入や、新産業・研究都市づくりに取り組むなど、全力で復興を成し遂げるとともに、その道程や手法を前例のない複合災害からの再生モデルとして構築し、世界に示すことを目指します。

### 理念5(挑戦)

#### 原子力災害を克服するとともに、再生可能エネルギーの導入を推進し、原子力発電に依存しない社会を目指す復興

原子力災害により、健康不安や、経済活動への支障が生じるなど、あらゆる面において、大きな影響が出ています。

しかしながら、原子炉の廃炉作業を完了し、市内のすべての地域で放射線量が震災前のレベルとなり、原子力災害による影響がなくなったものと、全国、全世界から認知されるまでには長い時間を要します。

このことから、モニタリングや放射線低減化対策、風評被害対策、医療体制の強化など、原子力災害対応に取り組み、その影響を払拭するとともに、再生可能エネルギーの導入を推進するなど、将来的には、原子力に依存しない社会の実現を目指します。

## (2)いわき市復興事業計画

### 1. いわき国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想研究会設置事業

福島・国際研究産業都市構想研究会で示される構想等の動向を見据えながら、新たな産業拠点創出の可能性等について、産学官の連携により検討する研究会を本年4月に設置した。

### 2. 成長戦略産業育成支援事業

医療・福祉関連産業、蓄電池関連産業、ロボット産業の振興に関し、セミナーの開催や情報収集等を実施する。

### 3. 環境・エネルギー関連産業創出支援事業

産学官等の連携による意欲的な取組みに対し、その事業化に向けた技術開発や市場調査などを体系的に支援する。

- ・民間企業等7社からなる「廃炉研究会」が平成25年11月に設立
- ・産学官の30団体からなる「いわきロボット研究会」が平成26年4月に設立
- ・民間企業等35社からなる「いわき地域風力発電ものづくり産業研究会」が平成24年9月に設立

### 4. 洋上風力発電調査研究事業

国が進めている実証事業を契機とし、将来の製造拠点化を見据えた関連産業の集積、地域企業の参入等に向けた取組みを推進する。

- ・産業支援機関等5団体からなる「洋上風力発電関連産業集積に関するいわき市連絡会議」が平成26年3月に設立

# (3) 再生可能エネルギーを核とした産業振興プロジェクトのイメージ



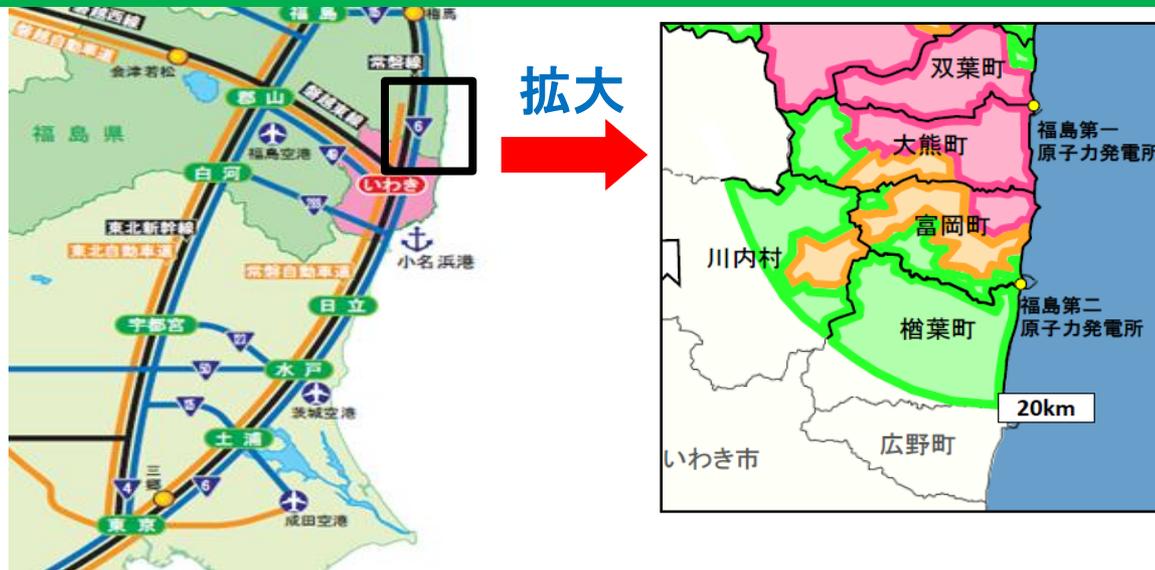
# 3. 浜通りの復興に向けて (1)本市の考え方(スタンス)

## 浜通り地域の復興に向けたイノベティブな「ゲートウェイ」の役割を担う

○浜通り地域の安全・安心を確保するため、首都圏からの近接性や双葉郡と隣接するといった地理的な特徴を活かしながら、国・東電が実施する廃炉・汚染水対策に向けた取組みを全面的にバックアップする。

○双葉郡へのアクセス玄関口として、既存の生活インフラ等を活かしながら、復興に携わる方々の研究・居住の拠点として、宿泊・生活・商業・交通・物流等の機能を提供する。

○既存の産業基盤と産業集積を活かしながら、クリーンエネルギー関連など新たな産業の創出にも取組み、浜通り地域における雇用の場を確保する。



## (2)本市の現状及び優位性

### ○「地の利」

・首都圏からの近接性、・双葉郡の町村に近接する中核市

### ○都市・交通基盤の集積

・高速道路網、鉄道網、・重要港湾小名浜港

### ○クリーンエネルギーを核とした新産業創出の可能性

・洋上風力発電実証研究事業、・IGCCの立地

### ○ものづくり産業の集積

・市内15の工業団地、・産学連携による各種研究会

### ○高等教育機関の立地

・いわき明星大学、・東日本国際大学、・福島工業高等専門学校

### ○双葉周辺地域からの多数の避難者

⇒居住・雇用の場等の課題

# (3) 国の構想に期待する事項

## ① 地域経済の活性化

### 1. 新たな産業創出への支援

- 浮体式洋上ウインドファームの福島沖での事業化
- 先端技術開発、研究開発・人材育成等に対する支援  
(例:蓄電池、ロボット)

### 2. 研究開発・人材育成の拠点の整備

- 研究・人材育成・産学連携拠点の整備(研究機関・人材育成施設の整備促進【例:福島復興研究大学連携拠点、国立工科大学の設置】、産学連携活動への支援)

### 3. その他

- 研究開発関係イベントの開催(ロボカップ等)
- 域内産業連関の強化  
(域内企業への受発注機会の確保等)



蓄電池



ロボット(イメージ)

# (3) 国の構想に期待する事項

## ② 産業基盤の整備

### 1. 小名浜港の機能強化

- 東港の整備促進・拡大、大水深化
- クリーンエネルギー産業(洋上風力等)の生産拠点を支援する機能整備

### 2. 交通基盤の整備

#### (1) 道路

- 常磐道直結道路の整備促進(小名浜道路)
- 常磐道の仙台延伸
- 域内幹線道路の整備(6号バイパス等)

#### (2) 鉄道

- 常磐線の高速化、複線化  
(首都圏からの所要時間を2.5時間⇒2時間以内へ短縮)

### 3. 新たな産業用地の確保

- 新たな工業団地の開発
- 四倉中核工業団地(第2期分)の早期造成



重要港湾小名浜港



常磐線特急列車「スーパーひたち」

# (3) 国の構想に期待する事項

## ③ 生活基盤の整備

### 1. 医療関係機関等の整備、機能強化

- 放射線医学に関する調査研究・最先端医療を担う機関(例:放射線医学総合研究所)の整備
- (仮称)放射線健康管理センターの整備
- 新病院建設事業に関して、地域医療再生基金事業の計画期間の延長

### 2. 居住環境確保に向けた支援

- 市街化調整区域での宅地開発を誘導する地区計画制度における税制優遇措置



ホールボディカウンター



新・総合磐城共立病院完成イメージ

## 4. 構想の具現化に向けて

いわきのものづくり基盤を活かした新たな産業拠点創出の可能性等について、産学官の連携により検討することを目的に、国の研究会に呼応する形で、いわき国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想研究会を平成26年4月24日に発足。

### 研究会メンバー(15団体)

#### <学識経験者>

○いわき明星大学、○東日本国際大学、○福島工業高等専門学校

#### <経済団体>

○いわき商工会議所、○いわき地区商工会連絡協議会

#### <産業関係団体等>

○いわき経済同友会、○いわき青年会議所、○東京電力福島復興本社、  
○廃炉研究会、○いわきロボット研究会、○蓄電池関係事業者、  
○いわき地域風力発電ものづくり産業研究会

#### <行政機関>

○福島復興局いわき支所、○福島県いわき地方振興局、  
○福島県ハイテクプラザいわき技術支援センター

ご清聴ありがとうございました。